

株式会社 藤井合金製作所

2023 年度環境活動レポート

(対象期間: 2023年4月1日 ～ 2024年3月31日)



創業者 藤井藤三郎胸像と1922年の創業当時に実際に使用していた旋盤



作成日: 2024年9月1日
修正日: 2025年1月16日

口ごあいさつ

「自然との共生」という志向は、既に一人ひとりの日々の生活に、深く根差したものとなりました。このような時代の流れの中で、環境保全の根幹を成すエネルギー資源への関心も年々高まりをみせ、クリーンエネルギーであるガスが改めて注目されています。

この環境にやさしいエネルギーを21世紀エコライフに活かすため、藤井合金製作所は、100年にも及ぶ研究開発の歴史を背景に、次代の高機能製品を追求し続けています。

より快適でより安全な人々の生活環境づくりに、オンリーワンの製品群で社会と環境に貢献すること、これが当社の変わることのないテーマです。



株式会社 藤井合金製作所
代表取締役社長 藤井 康孝

環境方針

【基本理念】

当社は、かけがえのない地球環境を次の世代に伝えていくことを重要課題の一つとして認識し、「地球にやさしく、人にやさしく」を企業活動の基本として行動します。

【基本方針】

当社は、ガス栓、ガス配管部材および温水コンセントの開発・設計・製造・販売を通じて、熱エネルギーと人々の快適な生活空間をつなぐ企業として社会に貢献することを目指しています。

当社の本社・工場（京都市）においては基本理念に基づき、事業活動および製品が環境へ及ぼす影響を常に認識し、汚染の予防と持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、生物多様性及び生態系の保護に努め、以下の環境活動を実践します。

- 次に掲げる重点課題を念頭に環境マネジメントシステムを構築し維持、改善します。
 - 二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - 水の効率的利用に努めます。
 - 廃棄物の削減、再利用に努めます。
 - 製造工程での化学物質使用量の削減、適正管理に努めます。
 - 環境に配慮した製品開発に努めます。
 - グリーン購入、調達に配慮します。
- 当社に適用される環境に関する法規制および同意するその他の要求事項を遵守します。
- 本社・工場、営業所における全従業員にこの環境方針を周知し、全員参加で取り組みます。
- この環境方針は、一般にも公表します。

制定日：2004年1月6日

改定日：2016年4月1日

代表取締役社長

藤井 康孝

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 藤井合金製作所
代表取締役社長 藤井 康孝

(2) 所在地

本 社	京都市南区上鳥羽鴨田町1番地
東京営業所	東京都千代田区岩本町2丁目12番7号
九州営業所	福岡市博多区古門戸町1番10号
広島出張所	広島県広島市中区橋本町9番7号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	総務部長	小田垣 正美	TEL:075-681-4581
担当者	品質管理部 次長	竹村 邦和	TEL:075-682-1258

(4) 事業内容

ガス栓、温水コンセント等の製造
主要製品：ガス栓、温水コンセント

(5) 事業の規模

製品出荷額 34.8 億円

	本社	東京営業所	九州営業所	広島出張所	合計
従業員	181	8	4	0	193
延べ床面積 m ²	8318	112	79	2	8511

(6) 事業年度 2023年 8月1日 ～ 2024年 7月31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名：株式会社 藤井合金製作所

対象事業所：本社工場

東京営業所

九州営業所

広島出張所(常在者なし)

対象外事業所：

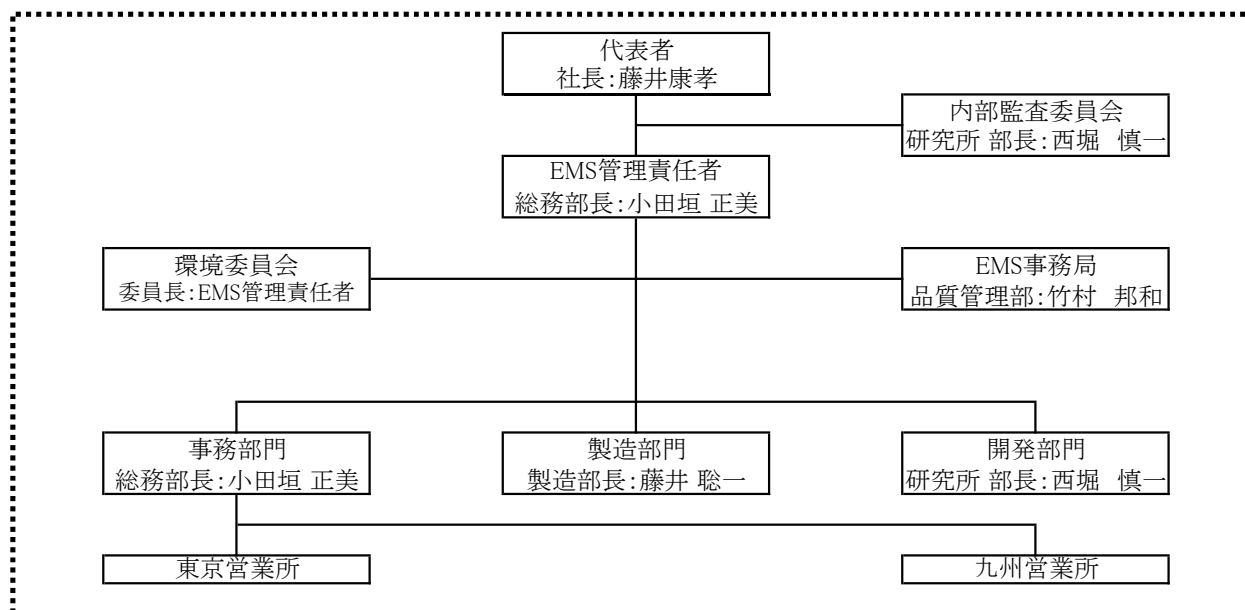
なし

活動：

ガス栓・ガス配管部材及び温水コンセントの開発・設計・製造・販売



□実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・EMS環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
EMS環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
EMS事務局	・環境管理責任者の補佐、内部監査委員会、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境教育の計画と実施 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・審査の申請、対応 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境委員会	・環境マネジメントシステムに関する活動における最高審議機関 ・環境活動計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門の環境負荷及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・自部門の環境活動計画書の作成 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況のEMS事務局への報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査委員会	・環境に関する内部監査の計画 ・内部監査員の養成 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	839,189	940,526	891,343
廃棄物排出量	kg	62,045	76,019	74,917
一般廃棄物排出量	kg	1,995	1,967	1,782
産業廃棄物排出量(廃プラ)	kg	25,550	35,525	32,025
同上(廃油) 実績管理のみ	kg	32,850	34,677	39,780
同上(木くず) 実績管理のみ	kg	1,650	3,850	1,330
水使用量	m ³	4,066	4,218	4,086
イソプロピルアルコール使用量	kg	1,986	2,000	1,817

※電力の二酸化炭素排出量換算係数 関西電力 0.42 kg-CO₂/kWh
R4年度実績(R6.7.19一部修正版) エネネット 0.325 kg-CO₂/kWh
* 営業所は本社事務部門の活動の中で取り組んでいる。



□環境目標及びその実績

項 目		年 度	基準値 (2018年度)	2023年度			2024年度 (目標)	2025年度 (目標)
				(目標)	(実績)	(コスト k円)		
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	基準年比	909,378 2018年度	869,928 95.7%	625,744 68.8%	¥45,180	869,928 95.7%	860,966 94.7%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂	基準年比	251,237 2018年度	234,772 93.4%	243,256 97%	¥14,097	234,772 93.4%	240,335 95.7%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	基準年比	28,984 2018年度	24,636 85.0%	22,343 77.1%	¥991,141	24,636 85.0%	24,636 85.0%
総二酸化炭素量 kg-CO ₂	通年		1,189,600 2018年度	1,129,337 94.9%	891,343 74.9%	¥1,050,418	1,129,337 94.9%	1,125,938 94.6%
一般廃棄物の削減	kg	基準年比	2,199 2018年度	2,238 101.8%	1,782 81.1%	-	2,238 101.8%	2,048 93.2%
廃プラの削減	kg	基準年比	23,100 2018年度	23,100 100.0%	32,025 138.6%	-	23,100 100.0%	23,100 100.0%
水道水の削減	m ³	基準年比	5,451 2018年度	4,234 77.7%	4,086 74.9%	¥2,184	4,413 81.0%	4,413 81.0%
イソプロピルアルコールの使用量削減	kg	基準年比	1,986 2020年度	1,986 100.0%	1,817 91.5%	-	1,986 100.0%	1,986 100.0%
事務用品のグリーン購入の推進	%	金額ベース	65.8%	65.8%	56.8%	¥714	65.8%	65.8%
製品・サービスへの環境配慮	開発件数		19件	219件	184件	-	219件	219件

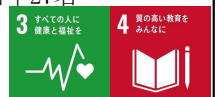
*名古屋営業所は独立した水道メーターが設置されていないため、集計から除外
*2022年度、2023年度目標は基準を2018年度に設定
*一般廃棄物の廃棄コストは本社分のみ

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標:○達成 ×未達成
活動:○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	【製造部門、開発部門】 エネルギー量、二酸化炭素排出量とも目標達成
・コンプレッサー稼働管理の徹底	○	【事務部門】 エネルギー量として未達、二酸化炭素排出量は目標達成
・大型コンプレッサーを半分能力2台へ置換分割稼働	○	【全社】エネルギー量、二酸化炭素排出量ともに目標達成
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯(昼休み・残業時の最小限化を含む)	○	
・エアコンフィルターの一斉清掃	○	LED照明の導入拡大
都市ガスによる二酸化炭素削減		
数値目標	×	【事務部門】 目標達成
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	【製造部門、開発部門】 目標未達
・フィルターの定期的な清掃	○	【全社】 目標未達
・		
・		
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	○	【事務部門】 目標達成
・エコドライブを心がける	○	
・適正空気圧の維持、不要物を積載しない	○	リース更新時に小型車のワゴン車への変更
・社用車ガソリン使用量の迅速なフィードバック	○	
・車両点検の定例実施(月1回)	○	

一般廃棄物の削減		
数値目標	○	【製造部門、】 目標未達成
・分別徹底(リサイクル可能な紙類)	○	【開発部門、事務部門】 目標達成 事務部門の電子化で紙削減
・電子File化の推進	○	実施
・梱包材の再利用	○	【全社】 目標達成
・廃紙の梱包材としての再利用	○	図面の電子配布 EDIの推進 人事管理システムの導入検討
廃プラの削減		
数値目標	×	【全社】 目標未達成
・分別の徹底 (分解を含む)	○	昨年来の不要、老朽運搬用トレーの大量処分を継続しての未達
・トナーカートリッジの業者回収	○	成
・部材納入トレイのリユース化	○	
・廃棄時の減容化	○	
水道水の削減		
数値目標	○	【開発部門、事務部門】 目標未達成
・節水に関する従業員への啓発・掲示	○	【製造部門】 目標達成
・洗浄機の効率運用とメンテナンス実施	○	【全社】 目標達成
		トイレリニューアルでの節水型トイレへの変更
イソプロピルアルコールの使用量削減		
数値目標	○	
・有害性物質の表示の徹底	○	【製造部門独自のテーマ】
・容器の蓋の徹底(密閉化)	○	一昨年度からの洗浄方法見直し効果が大きく、2020年度実績を基
・洗浄方法の見直し(リンス廃止 液交換頻度見直し)	○	準年度と設定し目標達成
事務用品のグリーン購入の推進		
数値目標	×	
・環境ラベル付き事務用品購入に努める	○	【事務部門独自テーマ】
・グリーン購入比率向上(カネネット・コピー用紙・名刺)	○	目標65.8%に対し、実績56.8%で目標未達。
製品・サービスへの環境配慮		
数値目標	×	【開発センター独自テーマ】
・六価クロム、PVC、黄銅のCd使用品の周知と削減	○	累計達成率は84%で未達成。
・環境配慮設計(安心安全と標準化・軽量化・小型化)	○	目標とした219件に35件及ばない結果となった。第一四半期の大幅未達が最後まで尾を引いた結果となったが、24年度も引き続き、環境に配慮した設計を推進していきたい
・プラスチック材料記号の表示(200mm2以上)	○	
・3DCAD、プリンター活用	○	
社会貢献		
・使用済み切手の寄贈	○	献血:40年以上の取組みで日本赤十字社より表彰。
・献血	○	社内献血 2023年8月7日実施。従業員159名中27名
・外国人技能実習生受け入れ	○	(全体の17%)が献血に協力
		技能実習生受入:2005年より毎年5名受入。
		54名が実習修了



□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属、廃プラ、廃ガラス、廃油、水銀使用製品等)の適正保管と廃棄 処理業者との契約 マニフェスト発行・管理
騒音規制法	コンプレッサー設置・変更時の届出 騒音抑制
振動規制法	コンプレッサー設置・変更時の届出 振動抑制
消防法(危険物)	イソプロピルアルコール、機械油の保管管理 危険物倉庫の管理
フロン排出抑制法	業務用空調機、環境試験機、一部コンプレッサーの管理、廃棄時のフロン破
有機溶剤中毒予防規則	イソプロピルアルコールの使用環境管理、特殊健康診断実施
RoHS指令	設計開発時の材料選定

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等は過去3年間(あるいはこれまで)ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

＜環境経営方針＞ 変更の必要なし

＜環境経営目標及び環境経営計画＞ 変更の必要なし

＜実施体制＞ 変更の必要なし

＜評価＞

電力、ガソリン、二酸化炭素、水、一般廃棄物、イソプロピルアルコールに関して目標達成は評価できる。特に昨年度目標達成できなかった水、一般廃棄物が目標達成できたのは評価したい。

一方で都市ガス、廃プラ、事務用品グリーン購入、製品・サービスへの環境配慮に関しては目標未達だったことは残念である。

空調用が多い都市ガスに関しては猛暑、廃プラに関しては不要品処分と止むを得ない理由があり目標未達も理解せざるを得ない。

エネルギー価格の高騰によりコストダウン成果が見づらくなっている。が、エネルギー価格が高騰している昨今では単位量当たりのコスト削減効果はより大きくなっていると評価している。

＜指示＞

コロナの5類移行で見かけ上は落ち着いたかに見えるが、コロナに限らずインフルエンザ等の感染者が出るとその部門が工数不足に陥り、残業、休出を強いられることで、稼働時間延長によるエネルギーロスになりかねない。今後も感染、健康面には留意して欲しい。

ウクライナ侵攻の長期化に加えて中東での紛争と世界情勢は益々予断を許さない状況になっている。エネルギー、資源、食料の供給、物流への影響は長期化、複雑さが懸念される。戦争は地球環境や人類社会・文明への影響が非常に大きい。EMSに対して無力感を感じられるだろうが、足元での取組の重要性は変わらない。腐らずに活動に取組継続して頂きたい。

環境・社会貢献活動の紹介

【廃棄物・エネルギー】



□エネルギー消費量削減

◇冷暖房 適正温度での運転



◇社用車をハイブリッド車に移行
全12台中8台（前年から+2台）



◇エアコン更新で省電力化
（2024年3月）



□廃棄物

◇廃水銀仕様製品を分別



◇廃棄物の分別徹底



【安全衛生】

□安全対策

◇第39回ゼロ災3か月運動達成



◇自衛消防訓練大会参加
チームワーク賞受賞（2023年10月16日）



◇避難経路確認訓練（2023年11月14日）



◇外国人技能実習生を対象に
消火器使用訓練を実施（2023年11月16日）



□車両管理・安全運転奨励

◇秋の全国交通安全運動（2023年9月1日～30日）

- ・従業員に対し安全運転教育を実施（教育用DVDの視聴） 49名参加
- ・車両一斉点検を実施（2023年9月25日）

◇優良運転者表彰（2024年6月3日）

無事故無違反で社用車の年間運転回数100回以上または年間総走行距離6,000km以上を達成した従業員10名を表彰

【その他】

◇エコアクション21からの表彰

環境経営への取り組みが表彰対象に



◇緑の地球防衛基金に協力

2023年7月 切手243gを寄付



◇外国人技能実習生受け入れ

平成17年より開始。毎年5名受入
これまでに54名が実習修了

◇日本語教室開催 週2回、講師を招き実施

◇日本語検定受験

過去実績： 1級 2人
2級 12人



▲2024年度入社式

◇社内献血 2023年8月7日実施。従業員159名中27名 (全体の17%)が献血に協力